SCHOOL JURIDICAL PERSON
SEIKEI GAKUEN

# 成蹊学園 広報

第60号
Winter
2006

## 高校ラグビー部 東京都大会優勝！
### ～31年ぶり4度目の全国大会（花園）出場！

［ CONTENTS ］

2　新年を迎えて
4　100周年記念事業進捗状況のご報告
7　桃李の人々
10　就職特集
12　大学の近況
14　中学・高等学校の近況
15　小学校の近況
16　創立100周年記念事業募金局からのご報告
18　学園TOPICS／健康支援センターから
20　学校行事予定（1月～3月）／学園史料館から

優勝を決めた高校ラグビー部員たち

SEIKEI

# 新年を迎えて

理事長
岸　曉

**理事長略歴**

1950年　成蹊高等学校（旧制）卒業
1953年　東京大学経済学部卒業
　　株式会社三菱銀行入行
1998年　株式会社東京三菱銀行頭取
1999年　成蹊学園理事
2000年　株式会社東京三菱銀行取締役会長
2002年　成蹊学園理事長
　　株式会社東京三菱銀行相談役

皆さん、新年あけましておめでとうございます。明るい気持ちで、この新しい年の初めをお迎えになったことと思います。

昨年は、国全体にとり大きな出来事として、九月十一日の総選挙があり、結果は予想を相当上回る自民党の勝利となりました。この結果にはいろいろなご意見やご感想がおありかと思いますが、少なくとも久々に我々一般人が、政治に参画したと実感した人が多かったのではないかと思います。そして、政治の世界を動かしている原理が、我々から隔絶した理解不能の原理から、一皮むけたと感じられた人が多かったのではないでしょうか。

経済の面では回復の傾向が一段と鮮明になり、つれて株価も回復し明るい気分となりました。金融システムの正常化や、いわゆる三つの過剰―設備、雇用、負債―の解消が統計上明らかになったためと思われますが、業種によっては供給力の調整が十分ではなく、問題が先送りされて今一つ好況感をさまたげていることも否定出来ません。

最大の問題は外交問題にあるように思われます。この問題は相手のあることですから、何時の時代も思い通りにいかないのが本質かとも思われますが、重要な近隣諸国との関係が改善方向に向かっていないことが憂慮されます。

そうした中にあって、成蹊学園は昨年も引き続き「将来構想」の実現に向かって、着々と諸施策を進めてきました。大学は一昨年の経済・経営学科の再編に続いて、昨年は理工学部再編が新たにスタートし、大きな期待が寄せられております。政府プロジェクトに認定された「ハイテク・リサーチ・センター」も着々と成果を上げつつあるように見受けられます。

法科大学院は今年三年目に入りますが、競争関係は予想以上に厳しいものがあり、何らかの対策が必要と思われます。成蹊ロースクールの特徴は何と言っても社会人に開かれた大学院であり、社会人から期待を受けている大学院でありますので、社会人の受講がしやすいよう、都心の丸の内に小さいながらサテライト教室を近々開くこととし、鋭意準備中です。サテライト教室が発足すれば、法科大学院以外にも、さまざまな活用が考えられるのではないかと思われ、成蹊のプレゼンスを高めることが出来れば幸いです。国際教育センターも健闘しており、様々の経験を積みつつありますので、今後の成果が期待されます。

「東洋経済」「ダイヤモンド」などに恒例の大学評価が報道されましたが、卒業生の社会での活躍、つれて就職での高評価などは何時もの通りでしたが、全ての面でエクセレントという訳には参らず、努力の必要を痛感させられました。

小学校は昨年四月より待望の二十八人学級が実現しました。これに伴い再開発計画が進んでおりまして、中村春二先生の教育理念に根ざしたソフトにハードをどう調和させるか、鋭意検討中です。

中学・高校の再開発計画も進んできました。一貫教育とは何か、それによってどういう効果を期待するのか。将来構想で抽象的に述べられたことがいよいよ具体的に議論される段階に至りました。

学園全体の問題としては、昨年秋の「寄附行為」改正がありました。これは学園の憲法ともいうべき基本的なあり方を定める規則であります。今回の改正は、昨年春の私立学校法の改正に対応して行われたもので、①理事（理事長を含む）の選任、解任の規定を明記する、②経営の透明性を高めるため「監事」の機能を強化する、③会計の透明性を高め、ディスクローズを推進する、等がポイントです。学園は特に経営監視機能の強化を重視し、前総務部長（一昨年定年退職）の大場烈夫氏にお願いし、監事にご就任いただきました。現監事の中野・樋口両氏に加え三人体制となります。特に大場監事には事実上「常勤監事」の役割を担っていただきます。また、財政に関しては従来保有資産のうち、株式は殆ど全く売買せず、債券の満期買い替えを行うのみでしたが、三菱UFJ信託銀行と投資顧問契約を結び、安全運用を守りつつ効率的運用を心掛けることといたしました。

また学園各学校の仕組みや実行のメカニズムが効率的で合目的的であるかを検証するため、「三菱総合研究所」をコンサルタントとしてプロジェクトを組み、学校組織や役職権限等の見直しを行うことといたしました。既にコンサルタントからの提言を受け取り、各学校で議論検討中です。

昨年学園として特筆すべきことは、中村春二先生の生涯を語るDVD『学問と情熱　第三十二巻―大正自由教育の旗手』が上田学園評議員のお力や紀伊國屋書店ほか関係者のご協力で完成したことです。これで学生諸君や志望者、御父母も成蹊教育の理想を容易に理解し、その真髄を知ることが出来るようになりました。大変有り難いことと思っております。

旧一号館跡の「情報図書館」は本年九月の稼動を控え、形を地上に現してきました。完成すれば、新しい学園のランドマークといえる建物になると思います。学園正門に続く欅並木とマッチして、見る人の心を揺さぶることと思います。暫く学園に足を運ばれていない方は一度是非ご覧になって下さい。欅並木は今も成蹊の精神を象徴するように、飽くまでもまっすぐで、高く、豊かで、瑞々しい姿で聳えております。

成蹊卒業生は柔軟性と協調性に富み、どういう組織でもその特質と忠実さが評価されます。この特質は成蹊のアイデンティティとして遺伝子に組み込まれた感があります。しかし学校の主目的は勉学であり、学力向上なくして在学の目的は達せられません。学生諸君は本年も成蹊の恵まれた環境、雰囲気を満喫しつつも、勉学においては厳しく競争し、競い合って大きな成果を上げられるよう期待いたします。

# 一〇〇周年記念事業 進捗状況のご報告

成蹊学園は、一九〇六(明治三十九)年中村春二先生が開いた学生塾に端を発し、その後、成蹊実務学校を創設した一九一二(明治四十五)年から数え二〇一二年に創立一〇〇周年を迎えます。成蹊学園では、一〇〇周年を迎えるまでに「新・成蹊創造プラン」として数々の一〇〇周年記念事業を推進しており、その事業経過についてご報告いたします。

## 創立100周年記念事業スケジュール

- 2004 4月 ● 国際教育センター創設
- 2004 4月 ● 法科大学院開設
- 2004 4月 ● 経済学部経済経営学科開設
- 2004 12月 ● 情報図書館建設工事着工
- 2005 4月 ● 小学校二十八人四学級・二・三学年からスタート
- 2005 4月 ● 理工学部開設
- 2006 7月 ● 中学校教室棟建設工事着工
- 2006 9月 ● 情報図書館開設
- 2007 4月 ● 小学校新校舎建設工事着工
- 2007 9月 ● 中学校教室棟使用開始
- 2007 10月 ● 高等学校教室棟建設工事着工
- 2008 9月 ● 小学校新校舎使用開始
- 2009 1月 ● 高等学校教室棟使用開始
- 2010
- 2011
- 2012 成蹊学園創立一〇〇周年

奨学基金の拡充・学園環境整備資金の充実

## 国際教育センター設立(二〇〇四年四月)

本学では、現代社会が求めるグローバルな視野を持った人材を育成するため、二〇〇四年四月に、小学校から大学までの学園縦断型組織である国際教育センターを設立しました。

以下にこれまで行ってきた取り組みの一部をご紹介します。

小学校では、早期から英語に触れることの重要性に鑑み、小学校図書室に英語絵本を設置し、あわせて児童および保護者を対象とした英語の読み聞かせに関するワークショップを開催しました。

高校では、ケンブリッジ大学への短期留学プログラム実施を合意しました。また、オーストラリア・カウラ高校、米国セントポールズ校からの留学生に対して、日本語教育講座を開催しました。

大学では、本館三階に日本初の英語多読専用教室を設置しました。図書館にも同様の教材を備え付け、ユニークな多読教育を積極的に展開しています。また、大学生、中高生、および保護者を対象とした海外留学危機管理セミナーを開催しました。そのほか、国際性に富んだ活動を積極的に行った本学学生を表彰するため国際研究賞・交流賞を新たに設けました。

SEIKEI INSTITUTE FOR INTERNATIONAL STUDIES

## 国際教育センターの特色

### 総合学園の特色を活かした教育力で、早期から高い国際性を養います。

**小・中高・大連携教育**

小学1年生よりネイティブの教員による英語教育を導入。まずは、英語を楽しみ、好きになることが目標です。何よりも、一人ひとりの個性を育て、表現力を伸ばしていくためのひとつの手段として、早い段階から積み重ねる英語教育に力を入れています。

### コミュニケーション能力を重視し、グローバル・スタンダード=英語を身につけます。

**コミュニケーション能力の開発**

英語がグローバル・スタンダードになりつつある今、英語圏の人々とコミュニケーションを図るためだけではなく、それ以外の国の人々と話すためにも英語は有効です。そのため特にコミュニケーション能力の開発に重点を置いた英語教育を行っています。

### 日本の近現代史教育などにも力を注ぎ、語学だけに特化することのない真の国際性を養います。

**国際理解教育**

真の国際理解は、英語から始まるわけではないと成蹊学園は考えています。そのため、各教科目の随所に国際性を意識した授業内容を取り入れています。「世界の中の日本」を知るために、近現代史教育を重視しているのもその一例です。

### 学内外を問わず培ってきた実績のもと、これまで以上に異文化交流を積極的に行います。

**国際交流**

帰国子女の受け入れには以前から積極的に取り組んでおり、海外生活経験者や留学生と日常的に交流を深めています。さらに、これまでは大学中心に広がってきた留学プログラムを高等学校などにもいっそう拡大していきます。

### 国際的な業務と国内的な業務の距離の縮小にあわせて、万能に活躍できる人材を育成します。

**人材育成**

国際的な業務を外国語能力に秀でた一部の人にまかせる時代は過去のものです。ますます国際性豊かな人材が求められる時代には、人間的魅力と高い国際感覚を育てなくてはなりません。世界で活躍し得る人材の育成に全学園あげて取り組んでいます。

## 経済学部学科再編（二〇〇四年四月）

経済学部では、二〇〇四年四月に、既存の経済学科・経営学科二学科を統合し、経済経営学科としました。学ぶ側の視点を第一に考え、学科の枠組みにとらわれないカリキュラムを展開することにより、多元的な視点と広範な視野を養成し、二十一世紀の経済社会が必要とする「自立した職業人」の育成を目指しています。

一学科制の下に「社会と環境」、「組織と人間」、「企業と戦略」、「金融と会計」、「経済と政策」の五つのコースを設置し、在学生は二年次より希望するいずれかのコースに所属します。

## 経済学部　次世代型教育の特徴

### ■ 選択自由な5つのコース

経済と経営、専門と教養が融合した5つのコースを中心にしたカリキュラムとなっています。学生は2年次にどれか1つのコースを選択しますが、希望は100パーセント尊重されます。

### ■ 個性と能力を伸ばす2つの特別プログラム

2年次から国際社会と情報分析の2つの特別プログラムの受講が可能です。約20単位の上級科目を学習していくもので、修了すると特別な修了証が発行されます。

### ■ 努力を実らせるための早期卒業

成績が優秀な学生は、一定の要件を満たせば3年で大学を卒業できます。この制度は大学院進学や留学などに活用するのに便利なものです。

### ■ 体系化されたキャリア教育

最新の教育理論にもとづいて構築されたキャリア教育体系を正課授業の中に包摂しています。

### ■ 自己設計科目でやりたいことにチャレンジ

全く制約を受けない自由に設計できる単位（20単位）を学生に付与します。経済学や経営学以外の科目や、他学部や他大学の単位で設計することもできます。

### ■ 新しいコンセプトで構築された教養教育

大学1、2年次で行う「一般教養」というこれまでの大学教育の常識を完全に覆し、全く新しい視点から、21世紀にふさわしい教養の概念を再構築しました。

## 法科大学院開設（二〇〇四年四月）

法科大学院とは、「法曹養成に特化した実務的な教育を行うプロフェッショナル・スクール」です。本学では、この新司法制度の下で新たに設けられた法曹教育の一端を担うべく、二〇〇四年四月に法科大学院（法務研究科）を開校しました。働きながら通う社会人向けに、昼間だけでなく夜間と土曜日にも時間割を配置しています。また、少人数教育の伝統を受け継ぎ、専任教員一名に対し学生十名の割合となっています。現在、一年生四十四名、二年生六十七名が在籍しています。

二〇〇六年四月には、丸の内に「成蹊サテライト・オフィス（仮称）」（千代田区丸の内三ー二ー三　富士ビル四階）を開設し、社会人対象（夜間コース）の授業の一部をインターネットで結び、同時視聴できる体制を整えます。これにより、急な業務で来校できない時でも、サテライトでリアルタイムに視聴することができるようになります。

## 法科大学院の特色

### ■ 1クラス20名程度の面倒見のよい小規模ロースクールです。

入学定員は50名で、内訳は法学未修者30名、既修者20名を目途としています。3学年の収容定員150名に対し、専任教員は16名で、対学生比は1:10となり、法科大学院設置基準の1:15を大きく上回った少人数教育です。

### ■ 双方向型授業形態による密度の濃い授業をします。

教員が一方的に講義するのではなく、学生と教員の間で、あるいは学生同士の議論を通じて進められる双方向型授業です。密度の濃い授業で、実務上生起する問題の合理的な解決能力を磨いていきます。

### ■ 理論と実務を架橋した法学教育を行います。

将来の法曹として必要な、法理論と結びついた実務の基礎を学ぶことができます。法曹業務の実践と直接結びついた科目も用意され、将来の実務に応用できるように、事案の把握と分析能力、依頼者などとの面談や聞き取りあるいは相手方との交渉などのコミュニケーション能力も養成します。弁護士事務所などでの実務体験も予定されています。いずれも豊富な研究実績と実務経験を備えた教員が担当します。

### ■ 渉外弁護士、企業法務スタッフの育成を目指します。

国際経験豊かな研究者教員、そしてわが国でも有数の渉外弁護士などからなる実務家教員が、「企業法務に強いロースクール」をつくっていきます。

### ■ 働きながら学ぶ社会人を支援する時間割を組みます。

標準修了期間は3年ですが、4年ないし5年の長期履修学生制度も用意し、働きながら通う社会人に向けた多様な時間割による講義を提供します。月曜から金曜までの夜間と土曜に科目を配し、補充的に夏期集中講義も構想しています。また、授業のない時間帯を有意義に過ごすため、早朝・夜間・休日の時間を問わず、自由に自習室を利用することができます。

### ■ 独立した法科大学院棟

法科大学院棟は本キャンパスより独立しているため、早朝・夜間・休日の利用が可能です。授業のない時間帯を有意義に自習室（学生一人ひとりのスペースを確保した自習室）で過ごすことができます。さらに模擬法廷を備えた講義室や法科大学院専用の図書室など、充実した施設で学ぶことができます。

## 理工学部スタート（二〇〇五年四月）

二十一世紀を迎え、工業化社会から知識社会への変革が進行しつつあり、これに対応した新しい科学技術を身に付けた人材に対する社会からの要請が高まっています。成蹊大学では社会が要求する革新的かつ複雑・高度な科学技術の課題に取り組むことを目的とし、これに必要な理学・工学にわたる学際的な教育の環境を整備するため、既存の工学部を改組し、二〇〇五年四月に理工学部を開設しました。

伝統の少人数教育を活かし、どんな状況にも応用の利く、確かな基礎力を学生一人ひとりが身に付けることを目指しています。実験・演習といった体験型学習と、卒業後を展望する力を養うキャリア教育を充実させるとともに、人文科学や社会科学などの学際性を重視し、時代と社会に対する幅広い視野を養うことができるよう配慮しています。

**【社会的使命①】知の創出**
人類が共通課題とする未知の領域に当たる学問分野において、革新的科学技術の創造に挑む。

**物質生命理工学科**
□おもな学習分野
バイオテクノロジー・医薬、環境科学・エネルギー、機能性材料・ナノテクノロジーなど
いずれも人類が解答を出し得ていない未知の領域です。対象となる学問分野は幅広く、特に境界領域における基礎学力の養成を重視します。物理・化学・生物を三本柱として学べる、新しいコンセプトの総合理工学科です。

**【社会的使命②】知の伝達と共有**
あらゆる社会活動に不可欠となったコンピュータの活用技術と、情報基盤技術の進化に取り組む。

**情報科学科**
□おもな学習分野
コンピュータ、LSI、情報通信、情報処理、情報数理、システム管理など
ソフトウェア技術、ハードウェア技術、そしてソフトとハードを組み合わせたシステムの構築・管理技術を三位一体で学習します。少人数指導によるコンピュータ演習により実務的なスキルを身に付けることにも力を注ぎます。

**【社会的使命③】知の活用**
さまざまな産業を支える基盤技術の発展に貢献し、社会を活性化する。

**エレクトロメカニクス学科**
□おもな学習分野
ロボット、自動車・機械、エネルギー、エレクトロニクス、経営・人間工学など
機械・電気電子・経営情報を融合したカリキュラムで、モノづくりの基盤技術を学習します。高性能な機械や電子機器を、ユーザーの使いやすさから生産コストまで考慮しながら設計開発できる広い視野と総合判断力を持つ技術者を養成します。

## 小学校二十八人・四学級制スタート（二〇〇五年四月）

創立以来の少人数教育の理念に忠実に、そして児童一人ひとりが持っている豊かな個性を引き出す行き届いた教育を実践するために、二〇〇五年四月より全国の私学に先んじて、一～三年次まで段階的に二十八人・四学級制に移行しました。少人数制学級編成にあわせ、二〇〇七年度より小学校施設の再開発が行われます。

### 少人数教育の特長

**よりきめ細かな指導ができる。**
- 一人ひとりの、読む、書く、話す場面に目が届きます。
- 授業中における一人ひとりの発言回数が増えます。
- ノート記入などの添削指導もさらに徹底できます。
- 計算学習などの“つまずき”にも、対応できます。

**心の動揺を感知して精神的なケアが充実する。**
- 一人ひとりとのコミュニケーションの機会がさらにつくられます。
- 日記指導も、より丁寧な見方ができます。

**4学級制によって学年における相互交流が増える。**
- 学級同士の親睦をより深められます。
- 他学級の児童も把握しやすくなります。
- 積極的な意味での競争の機会が増えます。

**保護者とのコミュニケーションの機会を増やせる。**
- 児童の作品等を学級通信にのせる機会が増えます。
- 個人面談や電話などによる連絡を密にできます。
- 保護者との連絡も密になります。

## 中高一貫教育の強化、中学・高等学校施設の再開発（二〇〇六年七月～）

さらなる学力の増進と学校の個性化を目指して、中高一貫教育の強化に努めます。あわせてIT時代に対応した施設の総合的な再開発を行い、国際化・情報化の時代にふさわしい人材を育成します。

## 情報図書館新設（二〇〇六年九月オープン）

国際化とともに、情報化を推進するため、多彩な情報機能を備えた「知の拠点」となる情報図書館を新設します。全学をネットワーク化し、学術文献、図書、資料などの情報が瞬時に利用・発信できるようになります。

二〇〇四年十二月より着工しており、現在、躯体部分の構築が進行しています。本年六月には建物が完成し、九月下旬より使用開始となります。

# 桃李の人々

第8回

**インターネットを通じて、ゴルフに必要な変革をリードすることをミッションとして2000年5月に設立された株式会社ゴルフダイジェスト・オンライン。その社長を務めているのが、OBの石坂信也さんです。高校、大学とラグビー部の活動に明け暮れたという石坂さんに成蹊学園時代の思い出を語っていただきました。**

石坂 信也
*Nobuya Ishizaka*
(株)ゴルフダイジェスト
・オンライン 社長


## リスクはむしろチャンス！ 他人とは異なる視点、発想でビジネスチャンスを見出していきたい

### 国際学級の制度によって日本の教育に馴染めた

**——成蹊学園に入学されたのは、中学校二年生からですね。**

**石坂**　父が東芝アメリカの社長を務めていた関係で、小学校一年から中学校一年まで、カリフォルニア州のサンフランシスコ郊外で過ごしました。帰国後、中学校二年生から成蹊学園の国際学級に編入しました。

**——成蹊学園に入学された理由は何だったのですか。**

**石坂**　父は成蹊学園の出身ですが、必ずしも家族の意向で入学したわけではありません。私は四人姉弟の末っ子で、姉三人は、そのままアメリカの大学に残ったり、インターナショナルスクールに入学する道を選びました。帰国した当初は、両親は私も同様にインターナショナルスクールに通わせようと考えていたようです。けれども、私は、子供心に姉たちと同じ選択では面白くない。あえて、日本の教育システムの中に飛び込んでみようと考えたのです。とはいえ、アメリカではずっと現地校に通学していましたから、日本語力はかなり不足していました。何しろ、漢字で書けるのは、自分の名前と数字ぐらいでしたから(笑)。帰国して半年ほど日本語学校にも通いましたが、それでも小学校で習う漢字がようやくマスターできた程度のレベルでした。国際学級を設けている成蹊学園ならば、そんな私でも、徐々に慣れることが可能なのではないかと思い、入学を決めたのです。

当時の国際学級は、土方敏夫先生が担当されていました。帰国子女の教育に熱意を傾けられていた方で、カリキュラムも帰国子女が自然に溶け込めるようにさまざまな配慮がなされていました。高校からは普通学級に移りましたが、国際学級というクッションがなければ、なかなか日本の教育にも、文化、生活習慣にも馴染むことは難しかったと思います。今でも国際学級の教育にとても感謝しています。

### 小学校の「海の学校」に師範として参加

**——学園生活で印象に残っていることは何ですか。**

**石坂**　小学校の「海の学校」に、高校二年から大学生まで、師範として参加したことです。いわばキャンプのインストラクター、あるいは指導員のような役割です。ただし、希望すれば全員が師範になれるわけではなく、個人メドレー、潜水、立ち泳ぎなどの泳力を問う試験も課されます。ですから、師範を務めるのは、ちょっとしたステータスが感じられるものでした。

**——具体的には、どのような指導をされたのですか。**

**石坂**　師範は、それぞれ約十名の小学生を担当します。安全を確保しつつ、小学生たちを楽しませることが役割になります。当然、リーダーシップ力が問われますし、進級試験も行われますから、それに合格できるように、担当した小学生たちの泳力を向上させる必要もあります。クライマックスは、最終日に行われる遠泳です。グループごとに列を成して、約一・五キロ泳ぐのですが、全員完泳できた時は、もう皆で抱き合って、感動の嵐です。高校時代から、このように小学生の面倒を見る機会を得たことは、貴重な経験だったと思います。「海の学校」で担当した子どもたちとは、その後も文通などで交流が続きました。その場限りではない絆が形成された気がしています。

**——小・中・高校、さらには大学の枠を超えた交流があったわけですね。**

**石坂**　それが、小学校から大学までを擁し、一貫教育を行っている成蹊学園の魅力であり、強みだと思います。「海の学校」の師範は、高校生、大学

**石坂 信也**(いしざか・のぶや)

1966年東京都生まれ。成蹊大学経済学部卒業後、三菱商事に入社。1997年から1999年にかけてアメリカ・ハーバード大学大学院に留学。帰国後、三菱商事を退職し、2000年5月、株式会社ゴルフダイジェスト・オンラインを設立、代表取締役社長・CEO就任。同社は2004年4月に東証マザーズに上場。東芝社長、経団連(現・日本経団連)第2代会長を務めた石坂泰三氏の孫でもある。

生のほか、OBも参加していました。その方々と、夜一緒に蛸突き、穴子釣りなどを楽しんだこともいい思い出です。

そのほか、クラブ活動でも、高校生と大学生が一緒に練習したり、合同で合宿したりしていました。素晴らしい伝統だと感じています。

## 高校時代はバスケット部とラグビー部に所属

――どんなクラブに所属されていたのですか。

**石坂**　高校ではバスケット部に所属し、主将を務めました。バスケットは、高校三年生の早い段階で大会が終了し、ほとんどの生徒は引退するのですが、私は、夏合宿から、今度はラグビー部に入部。大会にバックスとして出場しました。二つの運動部に参加するのは、前代未聞だったそうですが、私にとっては自然なことでした。アメリカでは、シーズンごとに異なるスポーツをするのが当たり前だったからです。私も、アメリカにいた頃は、学校の運動クラブのかたわら、野球のリトルリーグにも所属するなど、さまざまなスポーツを楽しんでいました。

――ラグビーは、大学入学後も続けられたのですか。

**石坂**　ええ。大学では、ラグビー部の副主将を務めましたし、社会人になってからも、再度アメリカの大学院に入学してからもラグビーを続けました。私のこれまでの人生は、ラグビー抜きには語れません。先ほど申し上げたような「海の学校」などの課外活動や、クラブ活動が、完全に私の学園生活の中心でした。日本語力不足というハンデがあったにも拘らず、早く周りに馴染むことができたのは、教室の中以外の活動も盛んな成蹊学園の伝統のおかげだったと感じています。

とはいえ、残念ながら、胸を張れるような成績を残すことはできなかったという悔いもあります。その点、今年度は高校が三十一年ぶりに花園で行われる全国大会に出場しましたし、大学も三年連続で対抗戦Bグループで優勝するなど、後輩たちは目覚ましい活躍を見せており、頼もしい限りです。そうした活躍ぶりは、私にとっても、よし、負けないように頑張ろうというエネルギーになっています。学園全体としても、一体感が生まれ、活性化につながるのではないでしょうか。

## 実践的なゼミに所属 卒論のテーマは「五大商社の経営分析」

――大学では、どのようなゼミに所属されたのですか。

**石坂**　三年次から、徳谷昌勇先生のゼミに所属しました。私は、ビジネスの世界に興味を持っていたため、ケーススタディーを中心として、実地に即した研究をしたいと考えていました。そこで「五大商社の経営分析」を卒論のテーマにして、さまざまな調査・分析を行いました。徳谷先生は、その後、自らコンサルティング会社を設立された方で、理論一辺倒ではなく、きわめて実践的な指導を受けることができました。このゼミでの学びを通して、商社への関心が高まり、三菱商事に入社しました。

――一九九七年から三年間、ハーバード大学の大学院に留学されていますね。

**石坂**　父から「ビジネスの世界の第一線でやっていくつもりなら、ぜひビジネススクールで勉強しなさい」とアドバイスされていました。「ただし、留学するのなら、自分で稼いだお金で行きなさい」と(笑)。ですから、入社前から、三年ほど働いたら、アメリカのビジネススクールに入学しようという希望を持っていました。そのため、社員を留学させる制度を設けている会社にターゲットを絞って就職活動を行いました。その一つが三菱商事だったわけです。

もっとも、現実に留学するまでには、結局七年あまりかかりました。私は、商社の中でも花形と言われている燃料グループに籍を置いていました。それなりに裁量を与えられ、海外を相手取ったダイナミックな仕事は面白く、いつのまにか時が過ぎていったわけです。確かに、十分にやり甲斐を感じており、そのまま同じ仕事を続けていくことも一つの選択肢ではありました。けれども、次第に、はたしてこのままでいいのか。さらなるキャリアアップを求めるのなら、自分に刺激を与える努力も必要なので

# 桃李の人々 第8回

石坂 信也／株式会社ゴルフダイジェスト・オンライン 社長

はないか。そういう思いも募っていきました。そこで、もともと志向していたビジネススクールへの挑戦を決意したのです。幸い、社内の留学者選考に合格し、ハーバード大学大学院に入学することができました。

**――ハーバード大学大学院での学びは、やはり期待どおりでしたか。**

**石坂** 世界中からトップクラスの学生が集まっており、彼らと議論すること自体が、とても刺激的でした。また、授業も、積極的な発言を求められるインタラクティブなものでした。授業の冒頭で、いきなり指名されて、予習してきたことの総括を要求されたこともあります。そうした授業を通して、常に思考し、発言する能力が徹底的に鍛練された気がします。

## ビジネススクールの課題レポートが起業のきっかけに

**――帰国後、ゴルフダイジェスト・オンラインを設立し、代表取締役社長に就任されたわけですが、以前からベンチャー志向はあったのですか。**

**石坂** もともと漠然とですが、起業の夢は抱いていました。加えて、ビジネススクールに通っていた頃、インターネットブーム、およびそれに伴うベンチャービジネスブームが到来し、その熱気に影響を受けた面もあります。そして、その時、私が考えたのは、今後のネットビジネスは技術の世界だけのものではない。一般の人々の生活に入り込み、根ざしていくべきものだということでした。授業で課されたビジネスプランのレポートでも、その点をテーマにしました。

**――どのような内容のレポートだったのですか。**

**石坂** ゴルフとインターネットを組み合わせたビジネスプランの構想をまとめました。当時、すでにアメリカには、インターネットにゴルフ場ガイドのサイトがありました。そのサイトでは「このゴルフ場は、ホットドッグの女性販売員が美人だ」といった口コミ的な情報も満載でした。料金やコース設定などのありきたりなものだけでなく、こうした情報も掲載するようにすれば、日本のゴルフ事情を変革する契機にもなるのではないか、そう考えたのです。このレポートで構想したことを進展させて、帰国後、インターネットでゴルフ用品を販売するEコマース事業、ゴルフ場のオンライン予約を提供するゴルフ場向けサービス事業、サイト上で情報提供するメディア事業などを柱とする「株式会社ゴルフダイジェスト・オンライン」を設立しました。現在、会員制のサイトの登録者数は七十万人を突破しています。

**――ゴルフに着目されたのは、何か理由があるのですか。**

**石坂** ゴルフが趣味だったことが関係しています。もっとも、その当時、すでに日本のゴルフ会員権は不良債権化し、多くのゴルフ場が破綻することが予測されていました。一般的な感覚ならば、縮小傾向にある業界に飛び込むのは危険だと考えるかもしれません。けれども、私はそれを逆にビジネスチャンスだと捉えました。従来型のあり方が否定される時代に入るからこそ、新しい意味のある方向性を提案できれば、勝機が見出せると考えたのです。

**――確かに、皆がチャンスだと考えるようなら、大変な競争になります。逆転の発想ですね。**

**石坂** そのとおりです。リスクはむしろチャンスなのです。振り返ってみると、私はこれまで常に、他の人とは異なる視点、発想で行動を起こそうと心がけてきました。姉たちと同じようにインターナショナルスクールに入学する道を選択しなかったこともそうですし、バスケットとラグビーの二つの運動部に所属したことも、安定した生活から変化を求めてビジネススクールに入学したこともそうです。世の中の流れとは違う感性を持ち、規定路線どおりでない方向を目指す。それが私のポリシーであり、起業家としても不可欠な要素かもしれないと自負しています。

## 優れたバランス感覚が成蹊学園出身者の強み

**――仕事をされていく上で、成蹊学園での経験が役に立っていると感じられることはありますか。**

**石坂** やはりラグビー仲間との絆ですね。他大学のラグビー部出身者も含めて交流が続いており、大きな財産になっています。

また、成蹊学園の出身者に共通しているのは、柔軟性があり、バランス感覚に優れていることです。性格も温和で、他人の意見もきちんと聞き、周りの人の立場を尊重しようという姿勢を持っています。その人間性が評価されているため、けっして派手に立ち回っているわけではありませんが、実に多様な業種、職種で活躍し、確固たる存在感を示しています。そうした「人間力」は、成蹊学園の風土ともいえ、今後もぜひ堅持していってほしいと願っています。私自身、最も大切にしているのはバランス感覚であり、それを成蹊学園時代に身につけられたことが強みだと思っています。

**――最後に、今後の成蹊学園に期待されることをお聞かせください。**

**石坂** 私が在籍していた頃も、高校生の約半数は、成蹊大学以外の大学に進学していました。近年は、さらに進学校化が進行し、その傾向が強まっていると聞いています。もちろん、その状況を必ずしも否定する必要はありません。けれども、学園の頂点に位置する教育・研究機関として、成蹊大学には、もっと多くの高校生が入学しようと思うような魅力ある場にしていく努力が肝要でしょう。それによって、学園全体も活性化が図られると思います。

（インタビュアー／広報課　伊藤昌弘）

# 二〇〇五年度の就職状況と就職支援の特長について

## 【採用状況】

リクルートワークス研究所の調査によると、大学新卒者の有効求人倍率は、過去四年間、一・三倍台で微増しておりましたが、今年度は一・六倍となり、就職環境は急速に好転しました。

二〇〇五年十月二十七日付の日本経済新聞に掲載された「二〇〇六年度採用状況調査」では、定期採用の大卒内定者数は二〇〇五年春実績比一三・〇％増と二年連続して増加しており、多くの企業は、業績回復に伴う営業力・技術力の強化、少子化の進展や団塊の世代の大量定年退職を視野に、人材の確保を加速させていることがうかがえます。

一方、年度当初の採用計画数は今春実績比二三・九％増との調査結果が報じられていましたが、前述のとおり、採用実績は計画より一〇％程減少しています。これは、昨年も同様で各企業の採用スタンスが依然「採用予定人数の確保より、学生の質を優先させる」という厳選採用の姿勢を崩していないということです。バブルが崩壊するまでは、企業に体力もあり採用予定人数の確保を重視してきましたが、リストラなどを経験し、合理化を進めて以来、コアとなる人材の確保に主眼を置き、採用予定人数が不足した場合は、中途採用や契約社員などで補っていくという考え方が主流となっています。

しかしながら、業績が回復し既存事業の拡大や営業部門の増強等のため採用意欲は高くなっており、採用期間を延長するなどして、優秀な人材を採用予定人数まで確保しようとする企業も多く見受けられます。

また、就職部では十月から十一月にかけて、百社以上の企業を訪問し、情報交換を行っておりますが、ほとんどの採用担当者から来年度も今年度並みあるいはそれ以上の採用を考えているとの話があり、就職環境は好調を維持するものと思われます。

## 【成蹊大学の就職内定状況】

文部科学省と厚生労働省の調査による二〇〇六年三月卒業予定の大学生の就職内定率は、十月一日現在、全国で六五・八％、関東地区で七二・五％と、それぞれ昨年より四～五％増加という結果が出ております。

成蹊大学四学部と大学院を合わせた就職希望者、一六七九名（内工学研究科六十七名）の同時期の就職内定率は七七・五％と平均を上回っており、十一月十日現在では、八一・五％と、ここ数年の中でも高い数値となっております。

また、内定企業を見てみますと、文系女子では金融業界への内定が堅調です。特にみずほ銀行や東京海上日動火災保険には、昨年の内定者数を上回る数の学生が内定しました。

一方、文系男子では難関とされている三菱商事や住友商事などの総合商社をはじめ、東京三菱銀行、大日本印刷、清水建設、本田技研工業、東洋製罐など業界を代表する優良企業に幅広く内定しています。

また、工学部・工学研究科の学生も、三菱重工業、日立製作所、東芝、三菱電機、日本電気、ニコンなどの大手メーカーをはじめ、多くの優良企業に内定しており、堅実に実績を積み重ねています。

おもな内定先の企業は別表のとおりです。

## 【就職支援の特長】

成蹊大学では、三年生の十月から就職活動に向けた支援を開始します。学部別の就職メインガイダンスを皮切りに、就職講演会、就職模擬テスト、内定者による就職活動報告会等の支援行事を行っております。その中で、最も力を注いでいるのは、学部ごとに担当者を配置した個別相談による支援です。

就職というものが極めて個人的で、かつプライベートに深く関わる部分を避けて通れないことから、個々の状況に応じた木目細かいサポートこそが最重要であると考え、就職を希望する全学生が納得いく結果が出せるまで、同じ担当者が学生の活動状況に即した相談を終始一貫継続して行っています。個別相談は、十二月中旬から開始し、求人紹介、エントリーシートや履歴書の書き方、面接の指導をはじめ、就職・進路に関するあらゆる相談に対応しています。

そして、この個別相談の利用を促進し、就職意識の高揚を図るための取り組みとしてグループガイダンスを行っています。このグループガイダンスは、成蹊大学独自の取り組みともいえるもので、就職活動の初期段階である三年生の十一月に、学生全員が学部相談担当者と顔を合わせる機会として、十～十五名程度の少人数グループ単位でのガイダンスを二～三週間にわたり、都合三十数回実施します。そこでは、働くことの意義から始まり、就職戦線における成蹊大学生の強み、インターネット情報と就職部の情報の本質的な違いとその意義から、就職活動の具体的な進め方などを、一グループに対して約一時間ずつレクチャーしています。

また、知名度やイメージだけの就職活動を行うことの多い学生に対し、様々な業界に日本を代表する優良企業がたくさんあるということを啓蒙するための学内企業セミナーも、就職支援の大きな柱としております。セミナーは、後期試験終了直後から二月の一ヶ月間にわたり開催します。ブース形式の合同セミナー方式のような、場所を提供するだけのイベントとは根本的に異なり、学生が希望するすべてのセミナーに参加できるように、一日四社が順次講演形式で行います。このセミナーでは、企業の人事担当者による話だけではなく、OB・OGの方や内定者が数多く参加するのも大きな特徴で、セミナーの運営・進行から学生に対する参加企業の紹介まで、すべてを就職部が行い、一社あたりの平均参加人数も二百名を超えています。

＊　＊　＊

成蹊大学では個別相談を中心に各種支援行事も含め、学生の就職活動状況に対応した支援を心がけております。今後も学部教育との連携を図り、就職支援のさらなる充実と、低学年に対する相談・支援の充実にも努めてまいります。

（就職部）



## おもな内定企業一覧

（2005年11月15日現在）

| 企業名 | 合計（内女子） | 内訳 文系学部（内女子） | 内訳 工学部（大学院含む）（内女子） |
|---|---|---|---|
| （株）みずほ銀行 | 63（60） | 63（60） | （　） |
| 東京海上日動火災保険（株） | 28（27） | 27（27） | 1（　） |
| （株）損害保険ジャパン | 15（12） | 15（12） | （　） |
| 東京海上日動あんしん生命保険（株） | 13（13） | 13（13） | （　） |
| 三井住友海上火災保険（株） | 12（11） | 12（11） | （　） |
| 大日本印刷（株） | 11（4） | 6（4） | 5（　） |
| 日本興亜損害保険（株） | 11（9） | 11（9） | （　） |
| （株）三井住友銀行 | 11（7） | 10（7） | 1（　） |
| みずほ信託銀行（株） | 10（9） | 10（9） | （　） |
| 三菱電機ビルテクノサービス（株） | 10（　） | 7（　） | 3（　） |
| 日本生命保険（相） | 9（8） | 9（8） | （　） |
| （株）りそな銀行 | 9（8） | 9（8） | （　） |
| （株）千葉銀行 | 7（3） | 7（3） | （　） |
| 大同生命保険（株） | 6（6） | 6（6） | （　） |
| （株）大和証券グループ本社 | 6（3） | 5（2） | 1（1） |
| （株）東京三菱銀行 | 6（2） | 6（2） | （　） |
| 旭化成ホームズ（株） | 5（3） | 5（3） | （　） |
| エム・シー・マシナリー（株） | 5（4） | 5（4） | （　） |
| 住友信託銀行（株） | 5（4） | 5（4） | （　） |
| 積水ハウス（株） | 5（2） | 5（2） | （　） |
| ダイワボウ情報システム（株） | 5（3） | 4（3） | 1（　） |
| 凸版印刷（株） | 5（2） | 1（　） | 4（2） |
| 日本紙パルプ商事（株） | 5（4） | 5（4） | （　） |
| 東日本旅客鉄道（株） | 5（2） | 2（1） | 3（1） |
| 三井生命保険（株） | 5（4） | 5（4） | （　） |
| 出光興産（株） | 4（2） | 4（2） | （　） |
| （株）インテリジェンス | 4（1） | 4（1） | （　） |
| オリックス（株） | 4（2） | 3（2） | 1（　） |
| 警視庁警察官 | 4（　） | 4（　） | （　） |
| 国家公務員（Ⅱ種） | 4（1） | 3（1） | 1（　） |
| （株）ジェーシービー | 4（3） | 4（3） | （　） |
| 清水建設（株） | 4（　） | 1（　） | 3（　） |
| 住商機電貿易（株） | 4（1） | 4（1） | （　） |
| 大和ハウス工業（株） | 4（　） | 3（　） | 1（　） |
| （株）中央住宅 | 4（2） | 3（1） | 1（1） |
| 中央三井信託銀行（株） | 4（3） | 4（3） | （　） |
| （株）トーハン | 4（3） | 4（3） | （　） |
| （株）トヨタテクノサービス | 4（　） | （　） | 4（　） |
| （株）日興コーディアルグループ | 4（　） | 3（　） | 1（　） |
| 三井リース事業（株） | 4（3） | 3（3） | 1（　） |
| 三菱自動車工業（株） | 4（1） | 1（1） | 3（　） |
| 郵船航空サービス（株） | 4（2） | 3（2） | 1（　） |
| 横河電機（株） | 4（　） | （　） | 4（　） |
| あいおい損害保険（株） | 3（2） | 3（2） | （　） |
| アメリカンファミリー生命保険会社 | 3（3） | 3（3） | （　） |
| （株）イシダ | 3（2） | 3（2） | （　） |
| （株）伊勢丹 | 3（1） | 2（1） | 1（　） |
| オリックス自動車（株） | 3（2） | 2（2） | 1（　） |
| キヤノン販売（株） | 3（　） | 2（　） | 1（　） |
| 共栄火災海上保険（株） | 3（1） | 3（1） | （　） |
| コーンズドッドウェル（株） | 3（2） | 3（2） | （　） |
| 住商リース（株） | 3（2） | 3（2） | （　） |

| 企業名 | 合計（内女子） | 内訳 文系学部（内女子） | 内訳 工学部（大学院含む）（内女子） |
|---|---|---|---|
| 全日本空輸（株） | 3（　） | 1（　） | 2（　） |
| 太陽生命保険（株） | 3（3） | 3（3） | （　） |
| 田辺製薬（株） | 3（2） | 2（1） | 1（1） |
| 東京電力（株） | 3（　） | （　） | 3（　） |
| 東洋製罐（株） | 3（1） | 3（1） | （　） |
| 野村證券（株） | 3（2） | 3（2） | （　） |
| 東日本電信電話（株） | 3（　） | 1（　） | 2（　） |
| （株）日立製作所 | 3（1） | 1（　） | 2（1） |
| （株）フジクラ | 3（　） | 2（　） | 1（　） |
| 本田技研工業（株） | 3（　） | 1（　） | 2（　） |
| マックス（株） | 3（　） | 2（　） | 1（　） |
| 三井不動産販売（株） | 3（2） | 3（2） | （　） |
| （株）横浜銀行 | 3（1） | 2（1） | 1（　） |
| （株）アイ・ティ・フロンティア | 2（　） | （　） | 2（　） |
| アビームコンサルティング（株） | 2（1） | 2（1） | （　） |
| 石川島播磨重工業（株） | 2（1） | 1（1） | 1（　） |
| 市光工業（株） | 2（　） | （　） | 2（　） |
| 伊藤忠テクノサイエンス（株） | 2（　） | （　） | 2（　） |
| ウシオ電機（株） | 2（2） | 2（2） | （　） |
| NECエンジニアリング（株） | 2（　） | （　） | 2（　） |
| 沖電気工業（株） | 2（1） | （　） | 2（1） |
| 加賀電子（株） | 2（1） | 2（1） | （　） |
| キヤノン（株） | 2（1） | 1（1） | 1（　） |
| 共同印刷（株） | 2（　） | 1（　） | 1（　） |
| （株）協和エクシオ | 2（　） | 1（　） | 1（　） |
| （株）群馬銀行 | 2（1） | 2（1） | （　） |
| コナミ（株） | 2（　） | 2（　） | （　） |
| 埼玉縣信用金庫 | 2（2） | 2（2） | （　） |
| （株）サイバーエージェント | 2（2） | 2（2） | （　） |
| 三愛石油（株） | 2（　） | 2（　） | （　） |
| （株）三陽商会 | 2（2） | 2（2） | （　） |
| JFE商事（株） | 2（1） | 2（1） | （　） |
| 城南信用金庫 | 2（1） | 2（1） | （　） |
| （株）常陽銀行 | 2（1） | 2（1） | （　） |
| 新菱冷熱工業（株） | 2（　） | 2（　） | （　） |
| スズキ（株） | 2（1） | 1（1） | 1（　） |
| 住友商事（株） | 2（1） | 2（1） | （　） |
| 住友不動産販売（株） | 2（1） | 1（1） | 1（　） |
| （株）成城石井 | 2（2） | 2（2） | （　） |
| 西武信用金庫 | 2（　） | 2（　） | （　） |
| 第一実業（株） | 2（　） | 2（　） | （　） |
| 第一生命保険（相） | 2（2） | 2（2） | （　） |
| 大成建設（株） | 2（1） | 2（1） | （　） |
| 大同特殊鋼（株） | 2（　） | 2（　） | （　） |
| 大日精化工業（株） | 2（　） | 2（　） | （　） |
| 武田薬品工業（株） | 2（1） | 1（1） | 1（　） |
| 多摩中央信用金庫 | 2（1） | 2（1） | （　） |
| 千代田化工建設（株） | 2（　） | 1（　） | 1（　） |
| （株）ディーシーカード | 2（2） | 2（2） | （　） |
| 東京特別区職員（Ⅰ類） | 2（2） | 2（2） | （　） |
| （株）東京都民銀行 | 2（　） | 2（　） | （　） |
| （株）東芝 | 2（1） | （　） | 2（1） |

| 企業名 | 合計（内女子） | 内訳 文系学部（内女子） | 内訳 工学部（大学院含む）（内女子） |
|---|---|---|---|
| （株）ニコン | 2（　） | （　） | 2（　） |
| 日本銀行 | 2（2） | 2（2） | （　） |
| 日本電気（株） | 2（　） | （　） | 2（　） |
| （株）日本航空インターナショナル | 2（2） | 2（2） | （　） |
| 日本マスタートラスト信託銀行（株） | 2（2） | 2（2） | （　） |
| （株）野村総合研究所 | 2（2） | 2（2） | （　） |
| ハウス食品（株） | 2（　） | 2（　） | （　） |
| フィリップスメディカルシステムズ（株） | 2（　） | （　） | 2（　） |
| 富国生命保険（相） | 2（　） | 2（　） | （　） |
| （株）船井総合研究所 | 2（　） | 1（　） | 1（　） |
| 三井住友カード（株） | 2（　） | 2（　） | （　） |
| 三菱信託銀行（株） | 2（2） | 2（2） | （　） |
| 三菱ふそうトラック・バス（株） | 2（　） | （　） | 2（　） |
| （株）村田製作所 | 2（1） | 1（1） | 1（　） |
| （株）メリーチョコレートカムパニー | 2（1） | 2（1） | （　） |
| （株）八千代銀行 | 2（　） | 2（　） | （　） |
| （株）和光 | 2（1） | 2（1） | （　） |
| アイシン・エイ・ダブリュ（株） | 1（　） | （　） | 1（　） |
| （株）イトーキ | 1（　） | 1（　） | （　） |
| （株）INAX | 1（1） | 1（1） | （　） |
| エーザイ（株） | 1（1） | 1（1） | （　） |
| （株）エヌ・ティ・ティ・データ | 1（　） | （　） | 1（　） |
| （株）大林組 | 1（　） | 1（　） | （　） |
| 小田急電鉄（株） | 1（　） | 1（　） | （　） |
| 小野薬品工業（株） | 1（　） | （　） | 1（　） |
| オリンパス（株） | 1（　） | 1（　） | （　） |
| （株）小糸製作所 | 1（　） | （　） | （　） |
| （株）資生堂 | 1（1） | 1（1） | （　） |
| （株）髙島屋 | 1（1） | 1（1） | （　） |
| （株）竹中工務店 | 1（　） | 1（　） | （　） |
| （株）帝国データバンク | 1（　） | 1（　） | （　） |
| 東京都公立学校教員 | 1（1） | 1（1） | （　） |
| 東京都職員（Ⅰ類） | 1（　） | （　） | 1（　） |
| （株）東北新社 | 1（1） | 1（1） | （　） |
| TOTO（株） | 1（　） | （　） | 1（　） |
| 日産自動車（株） | 1（　） | （　） | 1（　） |
| 日本ビクター（株） | 1（　） | （　） | 1（　） |
| 野村不動産（株） | 1（　） | 1（　） | （　） |
| 日野自動車（株） | 1（　） | （　） | 1（　） |
| 富士重工業（株） | 1（　） | 1（　） | （　） |
| （株）毎日新聞社 | 1（　） | 1（　） | （　） |
| マツダ（株） | 1（　） | （　） | 1（　） |
| 三井物産（株） | 1（1） | 1（1） | （　） |
| 三菱重工業（株） | 1（1） | （　） | 1（1） |
| 三菱商事（株） | 1（　） | 1（　） | （　） |
| 三菱電機（株） | 1（　） | （　） | 1（　） |
| 明治製菓（株） | 1（1） | 1（1） | （　） |
| 明治安田生命保険（相） | 1（　） | 1（　） | （　） |
| 森永製菓（株） | 1（　） | 1（　） | （　） |
| 森永乳業（株） | 1（　） | （　） | 1（　） |
| 安田不動産（株） | 1（1） | 1（1） | （　） |

## SEI-KEI架け橋プロジェクト始動

本学では、「学生満足度の向上」、「学生活力の大学運営への活用」を目的として、学長主導の下、「SEI-KEI架け橋プロジェクト」を十一月よりスタートさせました。学長と学生の交流を深めるさまざまなプロジェクトを実施することで、学生の生の声に学長が耳を傾け、学生本位の大学運営を目指します。

プロジェクト第一弾として、学長意見箱を学内三ヶ所（大学三号館、十四号館、西一号館の各一階ロビー）に設置しました。

この意見箱は、学生が成蹊での生活について、「おかしいな」、「不便だな」、「こうしてみたらどうだろう？」などと感じていることを直接学長あてに投書してもらい、それについて学長が自ら回答する、というものです。投書用紙は意見箱に常置され、またホームページからもダウンロードできるようになっています。指定用紙による投書の郵送受け付けも行います。氏名・学籍番号の記入は必須としていますが、それだけ誠意と熱意のこもった意見を希望しています。

なお、投書の回収は毎月第一、第三木曜の二回行われます。届けられた意見は、学長・学長補佐により対応が検討され、内容によって各関係部署、委員会において意見に対する協議が行われます。

投書意見、および学長からの回答は、原則として学内専用ホームページにて掲載されますが、意見提出者の氏名など個人情報は公開されません。ホームページは一ヶ月ごとに更新されるので、学生は大学側の動きを随時確認することができます。そのほか意見提出者の希望があれば、別途書面による詳細回答も行います。

この意見箱の愛称は、「学長直行便」で、意見箱を浸透させるために、学生から公募し、学長自らが選ぶという形で決めました。学生らしいユニークな愛称が多数応募された中から決まった愛称は、設置ポストに明示されています。

また、SEI-KEI架け橋プロジェクトスタートにあたっては、学長と成蹊大学新聞会による対談企画も行われ、学長と新聞会との率直な意見交換がなされました。その模様が成蹊大学新聞第二百四十九号小特集面で掲載されています。

意見箱設置により、学生と大学側との積極的な意見交換が行われ、教員、職員、学生の三者が一体となって成蹊大学をより魅力あふれる大学へと発展させていくことが期待されます。

そのほか、SEI-KEI架け橋プロジェクト第二弾として「学長オフィスアワー」も実施予定です。

詳細については、左記ホームページをご覧ください。

http://www.seikei.ac.jp/university/kikaku/kakehashi

## 文学部創立四十周年を祝う会開催

文学部は今年で創立四十周年となりますが、これを記念して十一月二十日、文学部・文学部同窓会の共催で祝賀行事が行われました。

第一部では、英米文学科卒業の小池真理子さんと法学部政治学科卒業の桐野夏生さんの対談「あの頃の私たち」が開催されました。ともに直木賞、日本推理作家協会賞など多くの賞に輝く当代の売れっ子作家ですが、三十年前の成蹊大学生時代の思い出や読書遍歴、創作活動に入ったきっかけから、時には「これはオフレコ」と断りながらの文壇裏話まで、二人の軽妙な会話の展開に会場の小学校体育館はおおいに沸きました。

引き続き場所を大学十号館十二階ホールに移して、祝賀懇親会が行われ、学園関係者・卒業生・現旧教職員がグラスを手に学部創設時の思い出や最近のキャンパスの変貌ぶりに会話の花を咲かせました。一九六九年の第一回卒業生以来の卒業アルバムからの懐かしいゼミ写真や、先生方の若かりし頃の顔がスクリーンに映し出されるたびに、あちこちから歓声やどよめきがあがるなど、終始和やかなうちに散会しました。

英米文学科・日本文学科・文化学科の三学科でスタートした文学部は、現在、文化学科を廃し国際文化学科・現代社会学科を新設して四学科となりましたが、四十年の歴史と伝統の蓄積の上に「時代と社会の変化に柔軟に対応できる自立的人間」の育成をモットーにしたさらなる改革の努力を続けています。

## こころの豊かさのためのプログラム開催

学生相談室では、大学生なら誰もが抱える悩みや課題―学業・性格・人間関係・進路など―についての相談やカウンセリングを行っており、大変多くの学生に利用されています。また、相談以外にも、学生が自分らしい豊かな学生生活を過ごすためのサポートとして、さまざまなプログラムを企画実施しています。

「こころの豊かさのためのプログラム」は、年に二回、外部から講師を招き開催しています。これまで行った内容には「ボディワーク」「ウォーキングと立ち居振る舞い」「ヨーガ」などがあり、多い時には七十名近くの学生が参加しました。

のんきそうに見えながらも、実はなにかと忙しく、ストレスの多い生活をしている現代の学生にとって、プログラムに参加することで、こころとからだにやさしい時間と日々の生活に生かせる知恵と術を学んでいるようです。十二月七日には成蹊学園セクシュアルハラスメント人権委員会と共催で、「アサーティブな恋愛のすすめ―デートDVを防ぐために―」という、学生にとって関心の高いテーマから、セクシュアルハラスメントについての啓蒙活動を行い、大変好評でした。

なお、相談室ではご父母の皆様からの相談もお受けしますので、ご利用ください。

《学生相談室電話番号》

〇四二二―三七―三八〇七

## 丸の内サテライト・オフィス開設

本学法科大学院においては、在籍者のうち約半数が社会人学生です。社会人学生の中には、業務終了後、法科大学院の社会人向け授業開始時刻の十八時三十分（六時限目の開始時刻）までに来校することが日常的に困難な状況にある学生もいます。また、仕事の関係で授業開始に間に合わないことがあるといったケースも生じてきています。

このような社会人学生の就学サポートは、本学法科大学院にとって重点課題の一つです。そのための対応として、都心の丸の内にサテライト・オフィスを設置して、本学で行われる平日の六、七時限目の授業をサテライト・オフィスでも聴講できるシステムを開始することになりました。具体的には、サテライト・オフィスのスクリーン画面に本学で行われている講義を同時中継します。また質問などの受け答えも可能な双方向性のあるシステムを検討しています。

開設は、二〇〇六年四月を予定しています。今後は、法科大学院以外の利用も検討し、成蹊学園の新しい拠点として、より多くの在校生・卒業生にメリットのある施設を目指していきます。

## 消防避難訓練を実施

本学では、火災や地震といった災害に備えた対策を立て危機管理を行っています。その一環として十一月二日には消防避難訓練を行いました。当日は、理工学部研究室で火災が発生したという想定で火災通報訓練、初期消火活動、学生の避難誘導などの訓練をしました。

避難訓練終了後は、武蔵野消防署の指導協力のもと避難場所に指定されている体育館前にて、消火訓練、起震車による地震体験、煙ハウスからの脱出訓練などが行われ、実際にどのような姿勢をとったらよいかなどを学びました。教職員や理工学部の学生を中心に、多数の参加があり、適切な知識といざという時に役立つ姿勢を身に付けることができたようです。

## 四大学運動競技大会

第五十六回四大学運動競技大会（四大戦）が十月二十一日から二十三日までの三日間、成城大学を会場校にして開催されました。四大戦は、さまざまな分野で交流のある成蹊大学、武蔵大学、成城大学、学習院大学がスポーツを通じて親睦を深める目的で毎年開催している伝統ある行事です。今回は、「その刻、みんなが一つになった」というテーマで熱戦が繰り広げられました。

本大会は、体育会各部に所属する学生による「正式種目」、学内予選を勝ち抜いた一般の学生が好きな種目に参加できる「一般種目」、教職員による「教職員種目」から構成され、「正式種目」と「一般種目」の合計得点で競われます。本学は、総合第二位の成績を収めました。

また、大会後の十一月一日には、四大戦で活躍し、優秀な成績を収めた団体を表彰する「成績優秀団体賞状授与式」が本館前にて行われ、秋晴れの下、学長よりそれぞれの団体へ賞状が授与されました。

## 高校生による大学見学

本学では、高校生による大学見学を積極的に受け入れています。見学の内容は、図書館、学園情報センターをはじめとする学内施設の内覧とキャンパス散策、教職員による本学の概要説明・体験講義が実施されています。

これは高校の「総合学習」の授業、または、進路指導の一環として実施されているもので、クラス単位や本学見学を希望した生徒を高校教諭が引率して来校します。

本年度は、十一月十五日現在で、東京近県を中心に三十七校、約千二百名の高校生・PTAが来校しています。学年は一～二年生がほとんどで、初めて大学を訪れる高校生も多く、「実際に見学して雰囲気がよくわかった」とか「大学の授業は面白そうだから、ぜひ進学したい」等の声が聞かれ、満足度は非常に高いようです。

高校生が進学先を決定するのに実際に大学を訪れてみることは、進路を明確にする上でも、重要だと考えています。今後も、キャンパスや授業、充実した施設を体感してもらい、本学の魅力を実感できる内容にしたいと思います。

### 学位授与式について

二〇〇五年度成蹊大学学位授与式を次の通り行います。

**日時　三月十八日（土）十時より**

**場所　大学体育館**

―ご父母の皆様―

式場が手狭なため、式場への入場は修了者・卒業者ご本人に限らせていただいております。このため、ご来校の際には、モニター放送により式の様子を別会場でご覧いただくことになります。予めご承知おきくださいますよう、お願い申し上げます。

モニター会場は、大学四号館ホール他です。

（お車でのご来校はご遠慮願います。）

## 高校体育大会

高校体育大会は、二学期が始まり、再び学校生活にも慣れてきた九月十三日、十四日の二日間、実施されました。春の体育大会が終わってから運動委員会を中心に秋に向けて準備を進めてきました。今回もバレーボール、バスケットボールやサッカーなどの球技種目でしたが試合をしている者と応援をしている者が一体となって競い合い、大きな怪我もなく無事終了しました。

## 中学体育祭

中学体育祭は、九月十五日に四百メートルグラウンドで、クラス別縦割りで（G組は二学年に入り競技）行われました。文化祭同様、一学期から準備をし、競技に臨みました。大玉ころがし、二人三脚障害物競走、騎馬戦、学年別クラス対抗リレー、部活対抗リレー等で力を発揮し、応援合戦では大声を張り上げ、皆が一丸となって勝利に向け完全燃焼しました。

## 蹊祭（中高文化祭）

中高文化祭は、十月一日、二日の二日間にわたって催されました。中高生は一学期から準備をし、クラスや団体によっては夏休み中も活動してきました。二日間とも好天に恵まれ来場者は多く、二日目の午後にはプログラムもなくなってしまうほどの盛況ぶりでした。中高文化部による大教室や理科棟、特別教室棟の発表・展示を中心に、中学前庭では創作ダンスや男子硬式テニス部による息のあった太鼓演奏が行われました。また高校前庭では、吹奏楽部、ダンス部の公演に加え、劇を上演したクラスや毎年恒例の女子バレー部によるチアリーディング、有志の和太鼓演奏、三年女子運動部による勇壮なソーラン節などが行われ、観客の目を和ませていました。昨年は雨天で中止となってしまった打ち上げ花火も実施することができ、最高のフィナーレとなりました。

## カウラ中高生のショートステイ

夏休みに成蹊の中高生十七名がカウラ校で交流を深めてきましたが、今度は、十月一日から十四日まで、カウラ校から十六名の生徒と二名の教諭が成蹊の中高生徒の家庭にホームステイしました。文化祭の二日目には、中学前庭にて盛大に歓迎セレモニーが行われました。カウラ生は授業への参加だけではなく、箱根寮に宿泊して富士山に登ったり、日光に出かけたりと日本の秋を十分に満喫して帰国しました。

## 中学校遠足

中学校の遠足は、十月二十八日に天候に恵まれ予定どおりに行われました。一年生はクラスの中で班分けをし、奥多摩の氷川キャンプ場で、飯盒炊爨と鍋料理にチャレンジしました。二年生は、鎌倉・北鎌倉に行きました。三年生の時に行く修学旅行では班別行動をすることから、その練習も兼ね、グループ別に見学しました。三年生は、奥多摩駅から徒歩三十分のアメリカキャンプ村で、野外での調理実習を行いました。

## 中高学校説明会

十月から十一月にかけ、中高の受験生と保護者を対象に学校説明会が行われました。中学校では、一学期に開催した第一回も含め、十月十五日、十一月二十六日の計三回実施し、各回とも盛況でした。

十一月五日、十二日に行われた高校の説明会も、多くの方にご来場いただき、会場は満席となりました。

## ネット小論文コンテスト

毎日新聞社主催の「第五回インターネットによる高校生小論文コンテスト」で、本校の村上綾那さんが佳作に入選しました。村上さんは昨年に続いての受賞で、全国および米・豪・韓など六ヶ国千九十八校一万九十五名（予選通過者は三千百十九名）の中から選ばれました。

## 高校生論文入選

日本原子力文化振興財団主催の第三十七回高校生論文募集に応募した本校の生徒が最優秀理事長賞を受賞し、学校としても最優秀学校賞を受賞しました。

## 運動部・文化部の活躍

高校ラグビー部が東京都大会で優勝し、全国大会（花園）に出場することになりました。詳細は18ページをご覧ください。

### 運動部

#### 中学

- **女子バレーボール部**
  - ＊第9ブロック新人大会……準優勝（2年連続　都大会出場は6年連続）
- **硬式テニス部（男子）**
  - ＊都大会新人戦　ダブルス　…ベスト8
  - ＊都大会新人戦　団体　……優勝
  - ＊関東大会新人戦　団体……第3位
- **硬式テニス部（女子）**
  - ＊都大会新人戦　団体　……第5位
  - ＊関東大会新人戦　団体…ベスト16位

#### 高校

- **硬式テニス部（男子）**
  - ＊都大会新人戦……第3位
- **硬式テニス部（女子）**
  - ＊都大会新人戦　……ベスト8
- **水泳部女子**
  - ＊都新人水泳大会　個人……第6位
- **サッカー部**
  - ＊全国選手権大会　都大会
    - ……1回戦　対都江戸川　5対1
    - ……2回戦　対駿台学園　0対1
- **ダンス部**
  - ＊第21回ヤングサウンドフェスティバル　ダンス部門（25団体出場）
    - ……グランプリ受賞（2年連続）
- **ラグビー部**
  - ＊第85回全国高校ラグビーフットボール大会東京都予選　第一地区……優勝　全国大会出場

### 文化部

#### 高校

- **演劇部**
  - ＊第59回東京都高等学校演劇コンクール中央発表会
    - ……演劇研究会賞　受賞

訪れの遅かった秋も、やっと素顔を見せてくれました。黄金色の公孫樹の葉はトンネル山とその周辺を覆い、子どもたちの生活の場に色とりどりの木々が美の競演をしています。心を豊かに育む秋の風情も、秋恒例の全校落ち葉掃きが始まり、松林から「やきいも大会」の白い煙がのぼる頃、短い秋から木枯らし吹く武蔵野の冬へと変貌していきます。

## 新しい風も吹き始めています

十一月の一日からほぼ一週間かけて、新しい仲間を選ぶ新一年生の入学選考が行われました。そこで百十二名(男女各五十六名)の合格者が決まりました。

今後数回の「保護者会」を経て、四月の入学の晴れの日を迎えます。その時を迎えるまでの子どもたちの心に、保護者の方々の心には大きな期待と小さな不安が起こっていることでしょう。大きな期待に応え、小さな不安を解消するために私たちは受け入れのさまざまな準備を始めています。

ここ数年の志願者数の変化は次のとおりです。

| | 志願者 | | |
|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 計 |
| 2001年度 | 422 | 334 | 756 |
| 2002年度 | 433 | 369 | 802 |
| 2003年度 | 469 | 334 | 803 |
| 2004年度 | 519 | 351 | 870 |
| 2005年度 | 438 | 414 | 852 |
| 2006年度 | 493 | 405 | 898 |

※2005年度より、定員を112名(前年度より-2)とし、男女同数とする。

## 今年も「学校賞」を受賞

第四十九回東京都児童生徒発明くふう展において、今年も生活の中から生み出した知恵を形に表した本校の子どもたちの作品が多数高い評価を受けることができました。十一月二十八日には東京都でその授賞式が行われました。

**○発明協会東京支部長賞**
「ヤドカリカラスネット」
六年　浅沼　博貴

**○毎日小学生新聞賞**
「パパッ取れーる」
三年　秋元　晴日

**○東京文具工業連盟会長賞**
「針いたなくなるふしぎな箱」
四年　濱田　佳奈子

**○発明協会東京支部賞**
**吉田発明記念**
「ポケザブ」
五年　岡田　真奈

**○優秀賞**
「まつぼっくん2号」
三年　齋藤　淳
「ミラクル虫かご」
三年　宮川　雅季
「型くずれボウシ君」
五年　藤井　菜々子
「花びんなどの
奥のよごれのがさな～い」
六年　大堀　啓太

**○入選**
「ターンかさ立て」
三年　平山　里和
「スパッとくん」
三年　宮野　綾
「くっつくパズル」
三年　山下　眞穂
「カッ飛び丸」
四年　川邑　宏平

以上の個人の受賞とともに、東京都から三校だけが選ばれた「学校賞」を今年も授与しました。

発明くふう展だけでなく本校の子どもたちはさまざまな分野でがんばっています。企業主催の作文コンクールに応募をし、賞を受けた子も多数います。ゴルフの東京都代表になってがんばった男の子のグループもあります。みんながんばっています。

## 創立九十年を祝う

成蹊小学校は今年九十一年目の時を踏みしめています。この場に居合わすことができたのも創立者中村春二先生をはじめとする多くの諸先輩の方々が、苦労しながら踏み重ねてこられた足跡があったからです。成蹊小学校の原点から、滞ることなく流れて続けてきた歴史の重みに感謝しつつ、未来へ向かう私たちの決意をより確かなものとするために十二月三日(土)記念の事業を行いました。平素の授業を公開し躍動感ある子どもたちの姿を見ていただきました。午後からは関係者約百三十数名の方々にお集まりいただいて、昔と未来の成蹊小学校について語り合いました。

私たちはまた時の階段を上り新しいページをめくることができました。私たちはこれからも多くの方々のやさしく厳しい眼差しをいただきながら子どもたちとともに歩んでいきます。

## 甲南小学校と覚書調印

十二月一日、甲南小学校と「教員相互交換事業に関する覚書」の調印式を行いました。従前から何かと縁の深い両校が、教員交流だけでなく、子どもたちの文化、体育、さまざまな面で今後交流が深まっていくことが期待できます。

# 募金局からのお知らせ

## 〝成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金推進の集い〟を開催しました

**十二月十七日(土)　於 大学十四号館理工学部大会議室および大学十号館十二階ホール**

成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金局では、二〇〇二年十月のスタート以来、同窓生・在学生ご父母・教職員からなる発起人・募金委員・募金推進委員の各委員の方々のご協力の下、募金活動を続けてまいりました。

このほど、各委員の皆様にご参集いただき、「成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金推進の集い」を開催しました。この集いは、日頃の委員の方々のご尽力に対して御礼を申し上げ、また同窓生、在学生父母、学園関係者・教職員の三者の交流をもって募金活動の実情についてのご理解をいただく機会として、昨年に引き続き開催したものです。当日は七十四名の方々にご出席をいただきました。

第一部では冒頭に、歌人の林あまりさんによる「最高のスタート―大学という場―」と題した講演をいただきました。林さんは一九八五年三月成蹊大学文学部を卒業されています。大学時代にめぐり合われた恩師との出会いをきっかけとし、大学在学中から短歌や劇評を発表されており、現在も大変ご多忙な日々を送っていらっしゃいます。歌人としてのスタート地点が成蹊大学であったとおっしゃる林さんのお話は全てがとても示唆に富み、興味深く、委員の方々に大変好評でした。

講演会に続いて委員総会に移り、初めに募金委員会会長の岸曉理事長から挨拶がありました。情報図書館・小学校校舎の建設計画、また二〇〇五年にスタートした小学校二十八人学級の様子などの報告があり、日頃の皆様のご尽力に対して謝辞を述べられ、今後の募金活動の推進についての決意を表されました。

続いて、募金委員会副会長で社団法人成蹊会の瀧秀彦会長より、成蹊会の募金活動への取り組みについてご挨拶をいただきました。瀧会長は、各学校・学部同窓会や、周年・地域同窓会など、幅広い同窓会活動の中で、この募金活動への参加を根気強くお声掛けいただいており、そのご報告等もございました。

続いて募金実行委員会委員長の加藤節専務理事より、一〇〇周年記念事業および募金事業の進捗状況等の報告を行いました。

さらに今後の募金推進について、当日、推進の集いに先立って開催されました募金委員会での検討結果に基づき、四年目の活動として新たな取り組みへの協力体制を提案させていただきました。

その後の質疑応答では、さまざまなご意見をいただくことができ、大変有意義な委員総会となりました。

第二部の懇親交流会では、募金委員会副会長の岡崎忠彦小学校長、同委員の橋本竹夫成蹊学園専務理事補佐より各委員のご協力に対してお礼の言葉が述べられました。

この懇親交流会では、同窓生委員、在学生父母委員および学園関係者・教職員三者が積極的に入り交じり、和やかに盛り上がる様子があちこちに見受けられ、まさに全関係者をあげての募金活動が進められていくことが実感として感じられる催しとなりました。

成蹊学園としましては、寄せられました皆様のご意見をしっかり受け止め、今後の募金活動に活かしながら目標達成のため努力をしてまいります。引き続き皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 広報課からのお知らせ

**《紀伊國屋書店制作》**

**学問と情熱シリーズ32巻**

### 「中村春二 ～大正自由教育の旗手～」のご紹介

紀伊國屋書店と学園で共同制作した成蹊学園創立者中村春二先生の評伝映像(DVD版)が2005年2月に完成いたしました。

購入をご希望の方は、紀伊國屋書店成蹊学園ブックセンター(TEL:0422-36-0360、E-mail:sg00@kinokuniya.co.jp)までお問い合わせください。 ブックセンターでお申し込みいただくと、定価3,150円(税込)の10%引きでお買い求めいただけます。

デモクラシーが声高に叫ばれ、「自由」「民本」という言葉が市民に根付き始めた時代、「大正」。教育界にも大きなうねりが押し寄せ、欧米の新教育運動の影響を受け、それまでの画一的な注入教育に対して、子供たちの自発性・個性を尊重しようとした自由主義的な教育運動が繰り広げられた。後に「大正自由教育」と称された運動の中で、多くの学校が生まれる。しかし、欧米の新教育理論だけでなく、日本的な僧堂教育に基づく全く新しい教育理念を掲げ、大正自由教育の先駆けとなった教育者がいた。それが中村春二である。「心力歌」「凝念法」「鍛錬主義」…。彼は独特の教育方法を次々に打ち出し、実践した。

生徒への教育だけでなく、教師の修養を重要視し、師弟の心が直接触れ合う人格教育、人間教育を目指した。その教育理念は、学内にとどまらず、ひろく一般に浸透していく。

21世紀に入り、教育を取り巻く諸問題がますます混迷を深める中、中村春二の理念にいま再び耳を傾け、真剣に対峙した時、我々には新しい糸口が見えてくるのかもしれない。

監修：柴田義松　演出：荻野洋一　ナレーション：長山藍子、遠藤守哉　特別協力：成蹊学園史料館、上田祥士

紀伊國屋書店チラシより

# 高校ラグビー部が東京都大会優勝！ 31年ぶり4度目の全国大会（花園）出場へ！

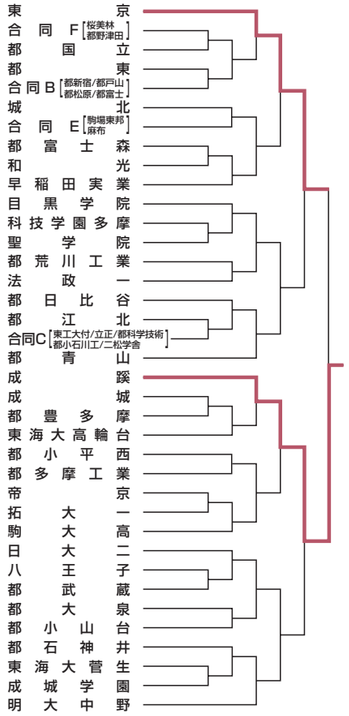
11月20日（日）、秩父宮ラグビー競技場で開催された東京都大会決勝において、高校ラグビー部が昨年優勝校の東京高校を19対17で下し、31年ぶり4度目の優勝を果たしました！

両校2トライ1ゴールの12対12で折り返し後半に臨んだ15分過ぎに、東京高校にトライを許し12対17と先行されましたが、最後まで果敢に攻め続け、後半ロスタイムにトライとゴールを決め見事な逆転勝利を収めました。

この結果、年末から大阪府の近鉄花園ラグビー場で開催される「第85回全国高校ラグビーフットボール大会」に東京都第1地区代表として出場することになりました。

今年のラグビー部は、メンバーのうち4名が国体の都選抜に選出されるなど、トップクラスの実力を有しており、花園での活躍が大いに期待できます。

全国大会の様子は、次号で詳しくご報告いたします。



土屋 嘉彦 教諭

**【高校ラグビー部監督】土屋 嘉彦 教諭** コメント

応援に来てくださった皆様の熱い声援を受けて、選手各人が最後まであきらめず、精一杯プレーしたことが勝因だと思います。1923年創部の高校ラグビー部は、学園で最も古いクラブの一つです。その歴史に31年ぶり4回目の東京都大会優勝、全国大会優勝という歴史を刻むことができたことを大変光栄に感じています。

今回の優勝は、選手の努力はもちろん、中山コーチによるフィットネス指導、大学ラグビー部の練習サポート、また、成蹊ラガークラブの先輩諸氏、保護者の方々の支援のお陰であり、高校ラグビー部を日頃より支えていただいている全ての皆様に深く御礼申し上げます。

花園への出場は部員一人ひとりの目標でした。この大きな舞台で、常に挑戦者としての姿勢で、積極的に、全力でプレーいたします。私たちの「成蹊ラグビー」がどれだけ全国で通用するか楽しみにしています。ぜひ皆様のご声援をお願いいたします。

三雲 淳 君

**【高校ラグビー部主将】三雲 淳 君** コメント

5点差を追う後半はあせりもありましたが、金本君にボールを渡せば絶対にトライしてくれると信じていました。皆さんご声援ありがとうございました。この勝利でチームはさらに成長したと思います。全国大会では、自分たちのラグビーがどこまで通用するか試したいです。

# 大学ラグビー部が関東大学ラグビー対抗戦Bグループ3連覇！

大学ラグビー部が、関東大学ラグビー対抗戦Bグループで7戦全勝し、3年連続の優勝を果たしました！

12月10日（土）に、大学ラグビー最高峰リーグのAグループ（1部）昇格をかけ、Aグループ8位の青山学院大学と熊谷ラグビー場にて入れ替え戦を行いました。結果は24対29とわずか5点差で惜しくも負けてしまいましたが、Aグループの大学を相手に堂々たる戦いぶりを披露しました。悲願のAグループ昇格は果たせませんでしたが、Aグループとの実力差は年々縮まってきており、今後の活躍が大いに期待できます。

■ Bグループ試合結果

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 第1戦 | 成蹊大学 | 58 − 0 | 武蔵大学 |
| 第2戦 | 成蹊大学 | 43 − 0 | 上智大学 |
| 第3戦 | 成蹊大学 | 22 − 20 | 学習院大学 |
| 第4戦 | 成蹊大学 | 24 − 5 | 明治学院大学 |
| 第5戦 | 成蹊大学 | 67 − 7 | 一橋大学 |
| 第6戦 | 成蹊大学 | 59 − 7 | 東京大学 |
| 第7戦 | 成蹊大学 | 57 − 5 | 成城大学 |

## 健康支援センターから

### センター長の独り言

櫻井 勝

巷では映画「タイタニック」の全盛期であった。人々はそのラブロマンスに心躍らせ、悲劇の結末に涙した。贅の限りを尽くしたタイタニックの豪華な船内装飾は、この壮大なラブロマンスを華やかに彩った。全ての人々の人生と炎の様な恋愛を、凍てつく圧倒的な存在として押しつぶした暗夜にそびえる氷山、映画史に不動の地位を築いたその映像美は圧巻であった。

北と南の違いこそあれ、南氷洋で私はまさにこの氷山を望んでいた。その神秘、神のごとき荘厳さ、輝く巨大な白の大地、鋭利に削り取られた断面は、まるで研ぎすまされた刃にさえ思えた。鉛色に低く垂れ込めた雲と黒い海、沈まぬ太陽はその雲の厚みに阻まれながら水平線を這い、時の感覚を麻痺させた。この世のものとは思えない静けさ、私は究極の景観と対峙し、一種、宗教的な思いにすら駆られていた。自らの人生を振り返り、怒りや不安、悩みや悲しみさえもその絶対的な光景の前では無意味なものに感じられた。むしろ眼前に広がる冷気と光、雲と海が織りなす世界にこの身を置けていることへの感謝と、導かれる様な喜びが全身を支配していた。寝ることさえ忘れ、その全てを網膜・脳裏に焼き付けようとした。もはや、臨床時間を失う焦りから持ち込んだ五箱の医学書達は、この圧倒的なパノラマの展望台と化していた。

# おもな学校行事予定（1月～3月）

| | 大学 | 高等学校 | 中学校 | 小学校 |
|---|---|---|---|---|
| 1月 | 14（土）～17（火）　補講期間<br>18（水）～31（火）　後期試験<br>20（金）<br>（法科大学院）後期授業終了<br>21（土）、22（日）<br>大学入試センター試験<br>21（土）～27（金）<br>（法科大学院）後期補講期間<br>23（月）、24（火）<br>後期レポート試験（提出期間）<br>28（土）～2／7（火）<br>（法科大学院）後期定期試験 | 11（水）、12（木）　推薦テスト<br>13（金）　始業式<br>23（月）～30（月）　入試願書受付<br>28（土）　文化部発表会 | 10（火）　始業式<br>11（水）　国際学級入学試験<br>20（金）～23（月）　入学願書受付<br>28（土）　文化部発表会 | 10（火）　始業式<br>11（水）～2／28（火）<br>国際学級入学試験願書受付 |
| 2月 | 1（水）～3／30（木）<br>春期休業<br>8（水）～3／31（金）<br>（法科大学院）春期休業<br>11（土）～14（火）<br>A方式入試<br>（理工・文・経済・法学部） | 2（木）～6（月）<br>帰国子女入学願書受付<br>10（金）　入学試験<br>14（火）　帰国子女入学試験<br>15（水）　マラソン大会 | 1（水）　入学試験<br>15（水）　耐寒健歩大会 | 21（火）　小学校枯林忌 |
| 3月 | 18（土）　学位授与式 | 1（水）～13（月）<br>高2編入試願書受付<br>1（水）～6（月）　学年末テスト<br>7（火）　卒業式<br>14（火）　高2編入学試験<br>17（金）　終業式・保護者会 | 1（水）～6（月）　学年末テスト<br>16（木）　球技大会<br>17（金）　終業式・保護者会<br>20（月）　卒業式 | 4（土）　国際学級5年入学試験<br>17（金）　卒業式<br>18（土）　修業式・教室移動 |

2月21日（火）は学園創立者・中村春二先生の命日です。先生は枯林という雅号を持っておられました。
成蹊学園では先生の命日を「枯林忌」として先生をお偲びしています。

## 学園賛助員・岩崎小弥太

成蹊学園賛助員、岩崎小弥太（いわさき こやた）は一八七九（明治十二）年八月三日、三菱二代社長・岩崎弥之助の長男として生まれた。一九一六（大正五）年七月一日、三十八歳で四代社長に就任以来、株式の公開や信託・保険・電機など新事業を次々と興し、大正・昭和時代の三菱の発展に大きく寄与した。また、俳句を高浜虚子に、絵画を相田直彦、前田青邨に師事するなど文化・芸術方面に広く興味を持ち、静嘉堂文庫の大成や日本初の民間交響楽団を創設するなど文化面において多大な功績を残している。

創立者中村春二・今村繁三との出会いは一八九一（明治二十四）年、東京高等師範学校附属中学校時代に始まる。後に成蹊学園を創ることとなる三人が同窓生として机を並べたことは奇しき出会いというべきであろう。岩崎は第一高等学校を卒業後、渡英。そこで英国の学校教育が個性を尊重し、自由闊達の学風であることに心を打たれ、日本にもこのような学校が生まれることを望んだ。中村もまた当時の日本の教育が個性を無視した知育偏重主義であることに疑問を持ち、今村の援助のもと私塾を設立していた。帰国後岩崎はその理想に共鳴しこれを援助することとなる。

中村は岩崎・今村の精神的・経済的な援助を得て一九一二（明治四十五）年池袋に成蹊実務学校を設立。続いて中学校、小学校、実業専門学校、女学校を開校し、成蹊学園の基礎を確立。岩崎は初代理事長に就任し、陰ながら学園の活動を支えた。

一九二四（大正十三）年中村の早逝により、その教育事業は岩崎・今村に引き継がれ、一九二五（大正十四）年には成蹊高等学校（旧制）が吉祥寺に開設された。岩崎は一九四五（昭和二十）年、六十七歳でこの世を去るが、成蹊学園は戦後の学制改革を経て、現在小学校から大学・大学院までの総合学園に発展している。

岩崎小弥太

岩崎小弥太遺墨「行雲流水」

100th ANNIVERSARY 1912-2012

成蹊学園広報
2006年1月10日　発行 学校法人成蹊学園 総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1　電話（0422）37-3517
URL http://www.seikei.ac.jp　E-mail koho@jim.seikei.ac.jp